



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

パレスチナ：PLO とハマースが国民和解で合意

4月23日、ガザでPLO 代表団とハマースは、国民和解で合意したと発表した。同合意では、5週間以内に暫定政権を成立させ、同内閣成立後から半年以内に大統領・評議会選挙を行うとした。今回の和解協議では、21日にエジプトから在外ハマース幹部のマルズーク政治局次長がガザ入りしていた。

ハマースとファタハが暫定政権樹立と選挙実施で合意したのは今回が初めてではない。両者は2011年、2012年に和解で合意したが、合意事項の履行に失敗している。今回の合意内容もこれまでと同様であり、履行が順調に進む保証はない。

イスラエル政府は、今回の合意に強く反発している。ネタニヤフ首相は、23日、アッバース大統領は和平ではなくハマースを選んだと非難した。イスラエル側のメディアの評価は分かれている。エルサレム・ポスト紙は、アッバース大統領の新たな対イスラエル、対米圧力の一つだと批判した。他方、ハアレッツ紙は、今回の合意はイスラエルへの脅威ではなく、チャンスであると前向きの評価をしている。米國務省報道官は、同合意に驚きを表明し、時期が問題だと批判した。

なお PLO は、4月26日に中央委員会会議を開催する予定である。同会議では、中東和平交渉を継続するかどうかと大統領・評議会選挙について協議すると報道されている。

評価

現在イスラエルとパレスチナは、4月29日に期限切れになる中東和平交渉の期間を延長するかどうかを協議している。そうした微妙な時期に今回の合意が発表された。そのため、パレスチナ側の動きが交渉継続の議論に影響を与えることは確かだろう。他方、パレスチナ側では、西岸 (PA) とガザ (ハマース) の分裂状態を解消することは、最優先の内政課題である。23日、アッバース大統領は、国民和解と中東和平交渉の継続は矛盾しないとの声明を発出している。イスラエル側は、今回の合意を非難したが、これまではアッバース大統領はパレスチナの半分しか代表していないと批判していた。

パレスチナ側が、西岸とガザの分裂状態を解消するための最良の手段は選挙である。アッバース大統領と現在の評議会議員はすでに規定の任期を越えて在職している。さらに重要な課題は、ハマースが、PLO とイスラエルによるこれまでの合意を認めた上で参加することかどうかである。パレスチナ自治政府は、イスラエルとの合意の結果により生まれたものであり、自治政府内の選挙も、イスラエルとの合意の結果である。2006年の選挙にハマースが初めて参加を表明した時、イスラエルの存在と過去の合意をハマースが黙認したのだと目された。しかし、

選挙で勝利したハマースは、イスラエルの存在やそれまでの諸合意を認めない立場を取った。その結果、イスラエルと米国はハマース主導の自治政府を認めず、ハマース政権は国際的に孤立した。さらにイスラエルによるガザに対する経済封鎖が開始され、西岸とガザの分離の大きな原因となった。ハマースは、国民和解の合意の中で大統領・評議会選挙を行うことに同意しているが、その前提として暗黙的であれ明示的であれ、イスラエルの存在を認め、1993年9月の相互承認以降のイスラエルとPLO間の諸合意を認める必要がある。このプロセスを経ないでハマースが選挙に参加する、あるいはPLOがそのことを確認せずに選挙を行う場合、パレスチナの分裂状況は解消するかもしれないが、現行の中東和平交渉に致命的な悪影響を与えるだろう。

(中島主席研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799